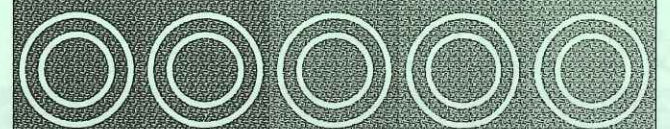


創世ホール通信 No. 274

催し案内 + 文化ジャーナル
2017年11月1日発行 ■北島町立図書館・創世ホール
電話088・698・1100◎ファクシミリ088・698・1180
771-0207◎徳島県板野郡北島町新喜来字南古田91◎



子育て支援ファミリー・コンサート

11月17日(金) 11時～11時半(開場10時半)

会場●3階多目的ホール 無料

出演●徳島県警察音楽隊

主催●北島町教育委員会(☎088・698・9812)

■毎年11月に開催し好評をいただいている未就学児歓迎のコンサート。時間は約30分。子どもさんが喜ぶような曲を用意しています■子育て支援の催しです。乳幼児とお母さんお父さん大歓迎!

2017年度北島町人権週間行事

阿波木偶(でこ)箱まわし保存会公演

人権文化を考える～福を運んだ三番叟(さんばそう)

11月29日(水) 14時～

会場●3階多目的ホール 入場無料

出演●辻本一英 + 《阿波木偶(でこ)箱まわし保存会》

内容●「人権文化を考える 福を運んだ三番叟」

主催●北島町、北島町教育委員会、北島町人権教育推進協議会(問●町教委事務局 ☎088・698・9812)

徳島レインボー映画祭

「パレードへようこそ」「追憶と踊りながら」

12月9日(土) 16時～20時半(15時半開場)

会場●2階ハイビジョン・シアター

入場料●前売/一般2000円、18歳未満1800円(前売当日共)

作品●「パレードへようこそ」(2014、英国、121分)、

「追憶と、踊りながら」(2014、英国、86分)

主催●徳島レインボー映画祭実行委員会(豊永 ☎088・652・1270)

共催●北島町立図書館・創世ホール

■徳島レインボー映画祭は、さまざまな人間の性のあり方(セクシャルリティ)をテーマにした映画祭です。この上映会を通じて人間の性は多様であることを身近に感じ、多様な人間のあり方が尊重されることを私たちは願っています■「パレードへようこそ」は、ストライキ中の炭鉱労働者支援に立ち上がったロンドンのL GSM (ゲイとレズビアン)の活動家)の若者たちと、ウェールズの炭鉱労働者の交流を綴る感動作。英国サッチャー政権下で起きた実話が、1980年代の名曲をバックに描かれています■「追憶と、踊りながら」はベン・ウィショー(「007スカイフォール」「クラウド・アトラス」)が主演を務めた人間ドラマ。ロンドンの介護ホームで過ごす年寄いた母親とその息子、そして彼の恋人のイギリス人青年が織りなす人間模様を描く。

2017年度北島町青少年健全育成講演会

寮美千子講演会★詩が開いた心の扉

～奈良少年刑務所での試み

12月13日(水) 13時30分～

会場●3階多目的ホール 入場無料

講師●寮美千子(作家、詩人、奈良少年刑務所社会性涵養プログラム元講師)

演題●「詩が開いた心の扉～奈良少年刑務所での試み」

主催●北島町、北島町教育委員会、北島町青少年健全育成町民会議(問●町教委事務局 ☎088・698・9812)

■2007年、作家・寮美千子は、奈良少年刑務所での社会性涵養(かんよう)プログラムの講師を、ためらいながら引き受けた。そこには童謡の「ぞうさん」を知らないまま育った少年(受刑者)がいた。彼は幼稚園にも小学校にも通っていなかったのだった■詩作とその詩への感想を述べ合う授業で、彼らは感受性をはぐくみ、情操豊かに変わっていった。その苦闘と軌跡を当事者が語る。



フクシマ・トクシマ連帯映画祭

遠藤ミチロウ監督主演作品「シダミョウジン・最終版」

上映会 + 監督挨拶 + ライヴ

12月16日(土) 18時30分～

会場●2階ハイビジョン・シアター

入場料●前売2000円(当日2500円)

作品●「SHIDAMYOJIN(シダミョウジン/羊歯明神)」最終版

(2017年、日本、71分、ドキュメンタリー) 出演=遠藤ミチロウ、伊藤多喜雄、木村真三、福島県志田名(しだみょう)地区のおじいちゃんおばあちゃんほか 監督=遠藤ミチロウ、小沢和史

主催●フクシマ・トクシマ連帯映画祭実行委員会(☎088・698・1100)

■吠え続けるミュージシャン・遠藤ミチロウのロード《盆踊り》ドキュメンタリー映画! ■原発事故が生んだメルトダウン・ミュージック! ■遠藤ミチロウは語る「盆踊りが蘇る! 民謡が蘇る! 東日本大震災、福島原発事故が壊したのは人々の生活だけじゃない。そこに生きる人々の心も破壊した。でも、自分達の本来の『祭り』を蘇らせることで、生きる希望を紡ぎだすことができるんだという熱意がバンド《羊歯明神(しだみょうじん)》を生んだ」■故郷の福島で盆踊りにインスパイアされた遠藤ミチロウが繰り広げるアンブレラ・パンクの新たな形、これが民謡パンクだ! ■ミチロウが追い求める祭りとは? 本作は映画作家・小沢和史と組んだ遠藤ミチロウ監督作の第2弾! ■当日は上映後に本人あいさつと、ライヴもあります。



パンク!
民謡!
盆踊り!

文◎化◎ジ◎ャ◎ー◎ナ◎ル

今後の創世ホールの催しについて

■当館では、11月中旬から12月中旬まで重要な催しが、めじろ押しです。そのご紹介をしておこうと思います。(小西昌幸)

【第6回子育て支援ファミリーコンサート】

■11月17日(金)11時から創世ホールで第6回の子育て支援ファミリー・コンサートがあります。これは、2012年秋から町教育委員会が始めた取り組みです。ずっと、徳島県警察音楽隊の皆さんにお願いしていましたが、昨年はどうしてもスケジュールが調整できず、四国大学吹奏楽部の皆さんにご出演していただきました。毎回来場者が増えて、昨年は超満員になりました。今年は再び県警音楽隊の皆さんの演奏です。なお、四国大学吹奏楽部の皆さんには、今年11月4日に、北島北小学校体育館で全校生徒の前で演奏していただきました。県警音楽隊の皆さんと四国大学吹奏楽部の皆さんには北島町は本当にお世話になっています。ありがとうございます。

【阿波木偶(でこ)箱まわし保存会公演】

■11月29日(水)14時から創世ホールで開催される今年の人権週間の催しです。出演は、辻本一英さんと阿波木偶(でこ)箱まわし保存会の皆さんです。辻本さんたちは以前、創世ホールでバナナのたたき売りなどの大道芸との共演で埋もれた民間の文化を探求する催しをされたことがあります。その時に(事前打ち合わせの際の雑談で)、戦前の映画の「阿波の踊子」の冒頭で人形芝居が出てくること、その人形は辻本さんたちの人形と大きさが異なるようであることをお話したことがあります。当時の約束で、映像資料をいつかお見せなくてはいいかなと思いつつ、ずるずると時間だけがたっていました。この前その映像資料を発掘したのですが、また埋もれてしまっています。いやはや。いずれにせよ、辻本さんたちのグループとお話しするのはとても楽しいので再会が楽しみです。

【徳島レインボー映画祭】

■12月9日(土)16時から20時半まで、2階ハイビジョン・シアターで「徳島レインボー映画祭」があります。これはセクシャリティをテーマにした映画祭で、「パレードへようこそ」と「追憶と、踊りながら」の2本を上映します。どちらも英国映画なので、楽しみです。「パレードへようこそ」は、ウェールズで決起した炭鉱労働者を支援するゲイやレズビアン若者たちの交流を描いている作品です。90年代に、「プラス!」という英国映画がありました。その映画も炭鉱労働者をブラスバンドの活動で支援する、見た後でとても元気になるような力のこもった映画作品でした。「パレードへようこそ」もその路線の作品ではないかと思われそうです。そしてもう一本の「追憶と、踊りながら」も徳島映画センター・福永さんのお話ではとても立派な作品とのことです。こちらも楽しみです。

【寮美千子さん講演会】

■12月13日(水)13時30分から北島町青少年健全育成講演会として寮美千子さんのお話を聞く催しがあります。作家で詩人の寮美千子さんは以前、創世ホールにご来場くださったことがあります。竹内博さんの生前唯一の公立施設での講演会「3人の怪獣王～円谷英二、香山滋、大伴昌司」(2003年3月23日)をパートナーの方と見に来てくださったのです。当時、寮さんは確か神奈川県にお住まいでしたので、遠路はるばる足をお運びいただいたこととなります。私は海野十三関係で寮さんと知り合い、当時やり取りを

していました。実は寮さんのおじいさんにあたる方で、寮佐吉という人が戦前に科学ライターとしておられたのです(この人は寮美千子さんの父方の祖父だが、寮さんが生まれる前に病没されている)。「新青年」編集長の森下雨村が寮佐吉と海野十三について書いた随筆を池田憲章さんが発掘していて、池田さんから指示でそのコピーを私が寮美千子さんにお送りしたことがあったので、そのことがご縁で交流が深まったのだと思います。何しろ十数年前のことなので記憶があやふや。その後寮さんは奈良に転居されました。もちろんどこにいてもそこでの足場を確保されて、ご活躍される力量を十分お持ちの方ですから、やがて奈良少年刑務所での社会性涵養(かんよう)プログラムに携わり、実績を積み、関係書を出版されるなど、大活躍される姿をお見掛けするようになりました。

■寮美千子・編『空が青いから白を選んだのです』(長崎出版・2010年、新潮文庫・2011年)は、重たい本でした。この本のタイトルに直接関連する作品は「くも」という題名の詩で、本文はたった1行、「空が青いから白を選んだのです」。いたってシンプルです。その詩は、7年前に死んだ作者(受刑者)の母親の最期の言葉「つらいことがあったら、空を見て。そこにわたしがいるから」に由来しているのです。少年は、病弱な母親を父親が殴ってばかりいるような家庭で育ち、幼心に自分が母親を守れなかったことを強く悔やんで過ごし、ずっとそれを引きずっています。そんな詩の背景があることを知り、胸を衝かれます。そんな純粋な感性の少年がなぜ犯罪に手を染めてしまったのか、その更生はどのようになさねばならないものなのか、深く考えさせられます。さらに読み進めると、幼稚園も小学校も家庭の事情で通えなかったため童謡の「ぞうさん」の歌を全く知らない受刑者のことも出てきます。この逸話も衝撃でした。私はたまたま昨年10月から保護司という肩書も得ているので、北島町青少年健全育成町民会議の春藤千恵子会長から今年の講師選任の相談を受けた際、ただちに寮さんの名が浮かび推薦させていただいたという次第です。

■それからもう一つ、寮さんは昨年美馬市でも講演されているのですが、その時は講演前日の深夜に美馬市に行きますのでよかったですね、という電子書簡を頂戴したのですが、急なこともあり日程調整がどうしてもつかず、伺えなかったということがあり、それが心残りでした。

■そして、おりしも北島町講演のひと月前に当たる11月11日に、キョーエイ鳴門駅前店4階で寮さんの講演会があるので、私は春藤会長と参加することにしています。鳴門の催しは《鳴門教育大学「全国教育実践活動コンテスト」奨励賞受賞記念講演会》と銘打たれています。寮さんの取り組みは、教育現場からも注目されているのです。

■北島町立図書館には寮さんの本がけっこうあります。それこそ、絵本、詩集、ジュブナイル、幻想文学、そして奈良少年刑務所詩集。そんな寮さんの講演会を当館で開催できて、幸せです。

【遠藤ミチロウ・ドキュメンタリー映画上映会+監督あいさつ+ライブ】

■寮美千子さん講演会の3日後、12月16日(土)には遠藤ミチロウさんのイベントがあります。ドキュメンタリー映画「SHIDAMYOJIN(シダミョウジン)」最終版の上映+監督あいさつ+ライブという構成です。この映画の上映会とライブは昨年もしましたが、今回は最終版で、尺数も増えています。私は、香川の人で遠藤ミチロウさんの催しを当地で手掛けている森山さんから先月電話を受け、ミチロウさんのバンドTHE・ENDの高松市内のライブ・ハウスでの演奏を見に行き、北島町のチラシも配布してきました(10月21日、高松RIZIN(ライジン))。おりしも季節外れの台風が接近していると

きで、大雨の中の高速道路の夜間運転で、道中ちょっと冷や冷やしましたが、演奏は素晴らしかったです。日頃の疲れやストレスを吹き飛ばしてくれました。

■北島町での演奏は昨年同様、生ギターを持ったソロ・ライブです。ミチロウさんは、ご病気(膠原病)の関係で、椅子に腰かけての演奏になる予定です。貴重な機会です。どうか多数ご参加ください。このほか、1月20日には「湧生回家」上映会、2月4日にはサエキけんぞう氏講演会があります。紙幅の関係で、それらは次号でドカンとご紹介します。(20171111脱稿)

新刊 小説 小西昌幸

南陀楼綾繁(なんだろうあやしげ)『編む人』に注目!

■全国各地で開催されている《ひと箱古本市》の仕掛け人として有名な南陀楼綾繁(なんだろうあやしげ、本名河上進)氏の最新刊は、9人の編集者へのインタビュー集。実は本書冒頭に小西が登場します。2009年1月19日夜に西日暮里の古書ほうろうで行われた《南陀楼綾繁のトーク十番勝負その9「ハードスタッフ・ナイト～先端的硬派雑誌の復活」》のときの対談が採録されていて、貴重な記録になっていると思います。そのほかの8名は、竹熊健太郎さんや大竹昭子さん(木部与巴仁氏のパートナー)や村元武さん(プレイガイドジャーナル)など著名な方々が登場。個人的には村元さんのお話が『フォークリポート』やURCレコードについてもディープに語られており、実に興味深かったです(私は村元さんの近著2点『プレイガイドジャーナルへの道』『プレイガイドジャーナルよ』を購入済み)。私が理想形とする雑誌の一つは『フォークリポート』誌なのです。とにかく、南陀楼氏は当代一流の優れた聞き手であり語り手である、とあってよいと思います。『ミニコミ魂』のときといい、今回の『編む人』といい、大変な怠け者の私を、絶妙のタイミングで世間に引きずり出してくれる南陀楼氏にお礼を述べたいと思います。◆南陀楼綾繁『編む人 ちいさな本から生まれたもの』ビレッジプレス、2017年11月20日初版発行、四六判・256頁。本体1600円+税。



ちいさな本から生まれたもの

編む人

南陀楼綾繁 Nandorou Ayashige

南陀楼綾繁 編む人 ちいさな本から生まれたもの

ISBN978-4-89492-218-1
C0095 Y1600E
定価(本体1,600円)+税
ビレッジプレス

9784894922181
1920095016009

9人の編む人へのインタビュー集

本書に登場する「編む人」たち

- 小西昌幸「ハードスタッフ」
- 竹村
- 堀内恭「入谷コピー文庫」
- 村
- 大竹昭子「カタリコ」
- 本間
- 牧野伊三夫「雲のうら」
- 小林
- 山崎範子「地域雑誌 谷中・楯

本を編む、場を編む、人を編む……出版の可能性を探りつづける 9人へのインタビュー

やりたいことをやるんだよ!

ビレッジプレス